



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町 10-34
カトリックセンター内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
山田 良 秋
印刷所
株式会社 藤木博英社

印刷所について

『カトリック教報』はその印刷を長年、株式会社藤木博英社様にお世話になっていました。このたび同社の都合により、本紙 5 月号を最後に印刷所が変わります。これまでの多大なご貢献に感謝いたします。

司祭助祭叙階式

喜びに包まれる浦上



新型コロナウイルスの影響下、各地で主日のミサ参加や黙想会が取りやめとなる中、3月20日(金)10時半から浦上教会で司祭・助祭叙階式が執り行われた。今回は参加者の人数も制限され、共同司式をする80人ほどの司祭たちも手指の消毒・マスク着用が徹底された。叙階されたのは、浦上教会出身の青田憲司新司祭(下段左)と飽の浦教会出身の西田祐尚新助祭(同左)。

叙階式ミサに先立ち、浦上教会の久志利津男主任司祭が教話を務めた。その中で同師は叙階の秘跡そのものについての簡単な解説を行った上で、青田新司祭が50代とい

年齢で叙階の恵みをいただくことに触れ、「青田新司祭の誕生は、すでに成人した者たちが新たな生き方を識別しようとする時の励ましとなり得るし、また司祭職に限らずとも、教会活動において40代、50代の者たちがますます活躍していくきっかけともなっている」と語った。

参加した司祭の中には、第一朗読で読まれたイザヤ書のメッセージが印象的だったと語る者もあった。主はわたしに油を注ぎ、主なる神の霊がわたしをとらえた(…)シオンのゆえに嘆いている人々に、灰に代えて冠をかぶらせ、嘆きに代えて喜びの香油を

／暗い心に代えて賛美の衣をまとうせるために(イザヤ書61章1-3節)という箇所について、「実施自体も危ぶまれた今回の叙階式が、参加者を制限してでも、最大限の注意を払った上で執り行われたことの意義を表しているようにも思えた」と話した。さらに、「実施を可能にしたのは、ひとえに浦上教会の評議会をはじめとした多くの協力者たちの尽力によるものだった」と加えた。式の終わりに高見三明大司教は「神と人のために自らを与え尽くす生き方を貫いてほしい」と祝辞を述べた。浦上教会

世界的大流行「パンデミック」となった新型コロナウイルス感染症は、人々に混乱と社会経済のまひ状態をもたらしている。感染者と死者が増え続ける中、あらゆる現場の深刻な状況が連日報道され、日本国内では4月7日、政府が7都府県に対し「緊急事態宣言」を発令。日本のカトリック教会においても日々目まぐるしく変わる情勢を鑑みながら、教区ごとに感染拡大防止の措置がとられている。

非常事態下でも祈りでつながりを

た。聖週間の直前4月8日には再度、公開ミサ中止「厳守」の理解と協力を求める通達が出された。さらに聖なる三日間には長崎教区としては初めて典礼祭儀のライブ配信が行われた。

困難な時です。(略)電話やソーシャルメディアで、最も孤独な人たちに声をかけましょう。イタリアや世界で苦しんでいる人々のために、主に祈りましょう。わたしたちは隔離されてい

信徒発見の聖母と共に

大浦天主堂でミサ 認定式も行われる

3月17日(火)「日本の信徒発見の聖母」の祝日に、19時から大浦天主堂で「信徒発見記念ミサ」が執り行われた。今年も新型コロナウイルス感染症への対策のため、参列者の人数が制限され、聖堂の入り口では全員に手指の消毒が徹底された。

高見三明大司教と中村倫明補佐司教をはじめ、16人の司祭と約60人の信徒が集まり、155年前の喜びの出来事に思いをはせて祈りをささげた。

またこのミサの中で、仁川(インチョン)教区出身で大浦教会所属のホン・チャンキ神学生の認定式が行われた。この認定式では、大神学院での2年間の哲学科課程を終え、この4月から神学科

イタリアからの報告 コロナウイルスの影響

3月30日現在

教区司祭 山内 啓輔



閉鎖のために日中も閑散としたサン・ピエトロ広場
4月2日 Vatican media live



ホン神学生

の課程に入るホン神学生が、公式に長崎教区に所属する神学生として認められたことが宣言された。

高見大司教は、母国でのキャリアを完全に捨てて長崎の教会のために司祭として働くこととするホン神学生の決意を確認した上で、その姿をイエスの最初の弟子たちの姿と重ねながら、司祭は全てを投げ打ってキリストが示した神の愛にならうことをいつも目指さなければならぬ、と説いた。

イタリアでコロナウイルスの話が始めたのは、1月中旬位からだっ

たと思います。その時は、全くといっていいほど危機感はありませんでした。ただ、1月下旬から2月初旬になると中国をはじめとするアジア人への偏見と差別が見え隠れしてきました。2月下旬になると一気に北部で感染が拡大し、たくさんの方から「イタリアは大丈夫か?」と連絡が来るようになりまし

た。学校も3月はじめにローマ市内すべてが一時閉鎖され現在のとこ

ろ4月3日までですがここから復活祭休みに入るので実質4月20日頃まで、できるだけ外出しないように私の住むコレジオでもアナウンスされるようになりまし

た。教会の閉鎖は同じか、もう少し早かったかもしれ

ません。司祭がいる共同体はいいですが、姉妹会などは外から司祭に来てもらうことも難しい状況にあるようです。ただ、バチカン

は依然として通常運転だったことははっきりと覚えてい

ます。次の週から私が参加す

る授業はオンライン授業になりました。コレジオで生活する160人ほどが同じインターネット回線を使うので非常に不安定な状況となり、時々苦

労させられます。同じ時期にバチカンも閉鎖ローマ市内すべてのレストランも閉鎖され、スーパーマーケットなどの生活必需品を買う店以外はすべて閉鎖となりました。

コレジオでもミサの平和のあいさつ(こちらでは握手)がなくなり、カリスから直接御血を拝領しないよう厳しく言われました。また、ミサの回数も3回に増やし、できるだけ濃厚接触を減らすよう努力しています。ほかのコレジオでは無断外出者が多いことから正門の鍵が替えられるなど、厳禁に近い状態になっているようです。

このような状況がいつまで続くかわかりませんが、たくさんの方がコロナウイルスで亡くなっています。どうぞ亡くなった方々のため、そして教会に行きたくてもいけない方々のためにもお祈りください。

人事異動・任命

(一) 内は前任地

▼サレジオ修道会(4月12日付)
西本 裕二師 イエスのカリタス修道会牧野修道院
ソボン・タデウス師 下井草協力司祭牧野修道院
▼フランススコ会(4月)
関口 七郎師 カトリックセンター付(長崎修道院)

ほしかげ

5月、最も美しい季節で母の温かな愛が溢れる聖母の月。しかし今年

は苦しい日々が続いてい

た。公開ミサの中止とい

う前代未聞の状況の中で

すごした四旬節と喜びの

声も上げられず迎えた

主の復活。だが、この苦

しい状況が私たちの信仰

を揺さぶるものになるの

だろうか。灰の水曜日か

ら公開ミサの中止となっ

た教区のある信者はこの

ように話しかけてきた。

「神父様、主日のミサに習慣的にあずかっていた自分の信仰をあらためて見つめ直しました。今までどれほど恵まれていたのか!」

▲人間とは創造主によつてこの世界に遣わされ、またそのもとに帰るために旅する存在といえる。そしてこの旅は一人ぼっちの孤独な歩みではなく、イエスの体である教会に結ばれて共に歩む旅なのだ。そのうえ教会はこのようにも述べている。「聖母マリアは旅する教会を母の愛をもつて見守り、私たちを導かれる。」

▲当然旅には様々な逆境も伴うが、私たちは言葉や聴き、聖体を崇め、願いを捧げながら生きていく教会に結ばれ、どんな時でもやさしく励まし同行してくださる母マリアと共にこの世を旅する幸せな存在ではないだろうか。全世界が共通の敵と戦っている今、母の温かな愛に包まれて、一歩一歩進むことができるように!!

▲「神は、耐えられない試練に遭わせず、試練と共に、逃れる道をも備えてくださる。」

I コリ 10 参照 (炫)

わたしたちが受けとったもの、伝えていくこと

教皇来崎からの始まり ④

主よ、わたしをとらえてください

エルサレム入城から受難

原稿執筆依頼を受けた時には全く想像していなかった、新型コロナウイルス感染症のパンデミック、世界規模の受難、それに伴う公開ミサの中止という状況の中、3月下旬の昼さがり、戸惑いながら筆を進めています。今、振り返る2019年11月の教皇来日は、イエスを歓喜のうちに迎えるエルサレムの入城の場面と重なります。そして、通常よりも長い「聖金曜日」を過ごす今、私は自分自身の罪深さに打ちひしがれています。

「すべてのいのちを守るため」というテーマのもと来日した教皇が発するメッセージや姿に、心をはすませ、信仰の喜びを味わい、共に御名を賛美することは自然なことでした。しかし、コロナの影響下、様々な誘惑と自身の弱さが浮き彫りになります。一見「賢明」とも思われる思いや行動が、イエスの示す「いのち」(神と隣人とのいっしょに満ちた関係)から私自身を遠ざけているありさです。このような弱さと罪を認めつつ、贖い主である主に信頼し、教皇来日を通して体験したことを振り返りたいと思います。

すべてが一つになるように

教皇来日に先立ってカトリック中央協議会で行われた全国広報担当者会議に参加したおり、私の中に一つの祈りが生まれました。「すべてが一つになるように」。それはイエスの「父よ、あなたが私の内におられ、私があなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らも私たちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたが私をお遣わしになったことを信じるようになります」(ヨハネ17章21節)との思いにつ

ながる祈りです。

教皇来日を通して、私たち日本の教会が問われているのは「キリストに結ばれた一つの体として証しすることができるか」ではないかと感じたのです。小教区、教区の壁を越えて協力すること。それぞれの賜物を活かし、分かち合い、多様性を大切にしながら歩を進めること。教皇来日準備を進めるなかで、教区職員としての職務を果たすとき、また一人の信者として歩む時に、「すべてが一つになるように」との祈りを核に判断し、行動しようと思いました。そのような歩みの中で印象に残ったエピソードを紹介いたします。

福岡教区で社会司牧活動の拠点となっている美野島司牧センターからは、路上生活者の方も教皇ミサに申し込みました。しかし、厳しい「身分証明書」の条件のため参加をあきらめようとしていたとのことでした。同センターの職員からの情報により、教区事務所としてもできる限りの対応をし、無事にミサに参加することができました。その方が次のような感想を寄せてくださいました。「初めてミサに参加しました。聖歌が荘厳で感動しました。母、祖母がクリスチャンだったので、私がこのミサにあずかれたことを天で喜びしていると思います。貴重な体験がありがとうございました。」みんなの思いと支援がつながり、天と地上をも結ぶ体験につながったことを感謝いたしました。

私は道であり、真理であり、命である

命である

福岡教区では教皇来日記念企画展「いつくしみと憐れみの人ー教皇フランシスコ」を2019年10月19日〜12月3日(水曜休)の40日間、カテドラル大名町教会で開催しました。教皇来日を機に、キリストの福音に従って行動し、自ら人々のもとに向き、様々な理由で社会の辺境に追いやられた人々に寄り添うフランシスコ教皇の姿とメッセージを、社会一般の多くの人に知ってもらいたいと企画しました。約2000人が来場し、1割ほどがカトリック信者以外の方でした。教皇の歩みやメッセージを紹介するオリジナルパネルを準備する中で、教皇フランシスコは「私は道であり、真理であり、命である」(ヨハネ14章6節)というキリストを体現して生きておられ、「カトリック」という枠にしばられない「真のことは」と行動で、いのちの意味、平和、環境問題、信仰(霊的生活)、難民移住者問題などについてメッセージを発信していることを実感しました。企画展に関して一般紙の取材を受けた時も、来場者アンケートからも、社会と人々の魂が「道・真理・命」を希求しているのだと感じました。

上から放たれた聖パウロ三木のメッセージに日々耳を傾けるようにとの招きを感じ、道、真理、いのちである方の福音の喜びと美を、すべての人と分かち合えますように。」

霊的な渇きと望み

教皇来日に関してのもう一つの歩みは青年たちとの歩みでした。福岡教区として来日前に2回、来日後に1回の集いを企画しました。来日後の1回は教皇来日のめぐみを振り返り、これからの歩みにつなげるために、テゼの歌を用いた祈りの集いとなりました。11月29日、約20人の青年が集い、静かな祈りの空間に、大きなめぐみと喜びが溢れる時間となりました。同時に、青年たちの祈りの時間への渇きも感じました。

この青年たちの渇きに何とか応えられないだろうか、と12月29日に半日黙想会を実施しました。信者でない大学生を含む8人が集いました。神にみつめてもらう「祈りの時間」と、仲間との分かち合いを通じ、青年たちは自分の存在が大切にされていることを体験し、神からのいっしょに深い呼びかけ「あなたはわたしの愛する子」を聴くことができたようです。そして、青年たちは語りました。「受けたものをつなげたい」「無関心の姿勢から解放されたい」「教皇が示す「貧しさ」を問いつづけた」「貴方も愛されている存在だと多くの人に告げ知らせたい」。霊的な渇きが満たされていくとき、霊的な望みが自然と生まれてくることを青年たちは教えてくれました。

しかし、私自身がそうであるように、青年たちも一人での霊的な歩みを進めることは難しいと感じているようです。ですので、これからも青年たちと共に歩んでいければと思っています。

いのちの福音を告げる

このように振り返ると、冒頭に述べたような私自身の弱さ、罪深さにもかかわらず、たくさんめぐみが降り注がれていることに気づきます。そして教皇来日記念カードに記された「あなたの力と光でわたしたちをとらえてください」の祈りが深まります。復活祭から聖霊降臨へ：私たちが闇の力から救い出し、「真理によつてささげられた者」としてくださる主に信頼して歩みをすすめる、共同体の交わりを大切にしながら、霊に満たされているの福音を証ししていきたいと思っています。主よ、わたしをとらえてください。

祝

福岡教区司教に
ヨゼフ・アベイヤ司教

教皇フランシスコは、4月14日午後7時(ローマ時間同日正午)、福岡教区司教に大阪教区のヨゼフ・アベイヤ補佐司教を任命すると発表した。福岡、佐賀、熊本、3県からなる福岡教区は、信者数3万2222人、小教区55、巡回教会9、集会所2(2018年12月末日現在)。19年4月27日の宮原良治司教の辞任から空位となり、杉原寛信神父が使徒座管理者を務めていた。(カトリック中央協議会ホームページ)

新入学の

神学生・志願生



今年の春、教区内の神学院・志願院に入学した生徒は左記の通り。

◆長崎カトリック神学院
中学1年
森陽 (滑石)

吉岡ハル (大分教区・坂ノ市)

◆聖コルベ志願院
中学1年
田中淳 (大阪教区・仁豊野)

高校1年
野間口太一 (鹿児島教区・川内)

◆お告げのマリア修道会
中学1年
島袋美月 (太田尾・間瀬)

下田佳依 (水主町)

主の平安

株式会社 五島式典社(斎場) 五島中央会館 五島留会館
代表取締役 ヨゼフ 浦 昭
24時間営業
五島市上津町 1385 番地 1 TEL (0959) 74-5551
FAX (0959) 74-5552
五島市奈留町浦 1899-1 TEL (0959) 64-3101
FAX (0959) 64-3102

長崎カトリックセンター前 長崎市上野町1-5
医療法人 平田クリニック

院長 ヨゼフ 平田哲也
内科・循環器科・入院可
通所リハビリテーションあり



カリス通信

No.5

カトリック信徒傷害見舞金制度のご紹介

カリスでは、教会の皆様を対象に、「カトリック信徒傷害見舞金制度」をご提供しております。本制度は、教会の福音宣教活動を支援するため、信徒の皆様は勿論、一般の施設利用者、訪問者が、教会施設内で生じた事故により、ケガをした場合に見舞い金等をお支払いする制度です。ただし、当該教区の司教、司祭、助祭等の皆様や有給の教会業務従事者、および清掃・修繕業者等は対象外となります。

<主なお支払事例>

- ・部屋と廊下の段差につまずき転倒し、大腿骨を骨折した。
- ・ファミリー祭りの設営を手伝った方が、設営中に転倒し腰を負傷した。
- ・信徒会館ホールで、テーブル脚部に足がかかり転倒して右腕を負傷した。
- ・ストーブを持ち上げて移動する際、電源コードにつまずき転倒し腰を負傷した。
- ・ミサの後、教会駐車場で信徒が転倒。左腕と左足を骨折した。
- ・雨の日、園庭の敷石を歩いていたところ、滑って転び肩を打撲した。

<補償の対象となる教会施設内で行う具体的な行事の例>

・ミサ・典礼：土日・平日の各ミサ、洗礼式、堅信式、結婚式、叙階式、復活祭 等

- ・例会：黙想会、聖書研究会、祈りの会 等
- ・行事・催事：バザー、祝賀会、歓送迎会、研修会、クリスマス会、七五三、成人式、セミナー、ボーイ&ガールスカウト活動 等

<お支払いする見舞金の種類>

①被災者対応費用 ②被災者傷害見舞費用および傷害見舞費用

ご加入者は、小教区単位になり、約500近くの教会にご加入いただいております。本制度は毎年6月1日開始(中途加入も可能)で、5月頃に全ての教会に制度をご案内しております。在籍信徒数により掛金が決まります。カリスならではの教会専用の制度であり、本制度をご活用ください。

私たちが、お守りいたします。
服部秀昭 大水文隆 杉谷英一
神父(顧問) 三條貴英 春田照美 毛利玲子



カトリック共済システム

有限会社 カリス

〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館 TEL: 03-5632-4449 FAX: 03-5632-4468

連絡先 ☎ 0120-77-0033 http://www.calis.co.jp/

リスク・補償に関して
何なりとお気軽に
お問い合わせください
19-TC03967

新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り

いつくしみ深い神よ、
新型コロナウイルスの感染拡大によって、
今、大きな困難の中にある世界を顧みてください。

病に苦しむ人に必要な医療が施され、
感染の終息に向けて取り組むすべての人、
医療従事者、病者に寄り添う人の健康が守られますように。

亡くなった人が永遠のみ国に迎え入れられ、
尽きることのない安らぎに満たされますように。
不安と混乱に直面しているすべての人に、
支援の手が差し伸べられますように。

希望の源である神よ、
わたしたちが感染拡大を防ぐための犠牲を惜しまず、
世界のすべての人と助け合って、
この危機を乗り越えることができるようお導きください。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

希望と慰めのよりどころである聖マリア、
苦難のうちにあるわたしたちのために祈りください。

(2020 年 4 月 3 日 日本カトリック司教協議会認可)



新型コロナウイルスの影響下

すべての人々のために祈る

今は無関心・利己主義・分裂・忘却の時ではありません

昨年 12 月の発生以降、急激に拡大した新型コロナウイルス感染症は今なお世界中に大きな被害・影響を及ぼし続けている。カトリック教会では感染拡大のただ中に聖週間を迎えることとなった。日本の教会もそれぞれの場で非公開ミサを行うなどし、教皇フランシスコの招きに応えすべての人々のために祈りをささげた。長崎教区はいくつかの教区と同様に聖週間の典礼祭儀をライブ配信するという方法を初めて用いた。長崎教区の対応などをまとめた。(広報)

日本の教会、各教区の対応

東京教区は 1 月 31 日、「新型コロナウイルス感染症に伴う注意喚起」を公式サイトに掲載した。日本国内で感染拡大の懸念が出始める前からの呼び掛けだった。いち早く対応を進めた同教区は、「霊的聖体拝領に関して」「教皇庁からのゆるしの秘跡と特別免償に関する通達について」など信仰生活上助けとなる情報を伝え、公開ミサ中止の決定後には主日のミサのライブ配信を開始した。

東京教区だけではなく、日本の全 16 教区が各地域の情勢を鑑みながら何らかの措置をとり、公開ミサ中止や、叙階式の延期あるいは参加制限、ミサ以外の諸行事

教区長の通達

2 月 21 日

長崎教区においては、高見三司大司教による 2 月 21 日付通達「新型コロナウイルス感染症に関する注意」が第一報だった。その後まもなく、大浦天主堂と敷地内建造物の一時閉鎖や、カトリックセンターの利用制限の決定が関係者から相次いだ。

2 月 28 日、29 日

28 日、高見大司教が「2 月 29 日から 3 月 14 日まで主日のミサを中止する」方針を示し、翌 29 日に各小教区主任司祭と修道会に詳細が伝えられた。内容は「信者の心構え」と「ミサに参加する場合の心得」、それから「2 月 29 日から 3 月 14 日までの緊急な対応」。

具体的には▼主日のミサの中止(後報で 3 月 15

の中止・延期を決めている。長崎教区も公開ミサを中止にしたが、同様に対応したすべての教区がおそらく、「教区全体で公開のミサを中止にする」という判断は、簡単に到達した結論ではありませ(左上の囲み)を公表した。

上の写真 復活祭メッセージの中で教皇フランシスコは、世界が直面するパンデミック危機を前に、「今は無関心・利己主義・分裂・忘却の時ではない」と訴えた(バチカン・ニュースから)。

受難の火曜日

聖香油ミサ・司祭の日



受難の火曜日の 4 月 7 日 10 時半、浦上教会で聖香油ミサが行われた。

聖香油ミサは、神の民全体が一つであることなどを適切に表現するため本来は多くの人々の参列が望まれているが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮し、司祭のみで祈りがさげられた。説教の中で高見三司大司教は、特に次の点

を強調し呼び掛けた。「イエスは最後の晩餐で、聖体の秘跡と司祭職を制定されました。司祭は、『キリストの代理』では不十分です。頭であるキリストと一体となつて働く者」となるべきです。公開のミサを中止している今こそ、あらゆる時間、キリストと一体となつて働きましょう」

ミサでは、この 1 年にわたつて使われることになる「病者のための油」と「洗礼志願者のための油」の祝福、また「聖香油」の聖別があった。

3 月 13 日、19 日

13 日大司教から再び、3 月 17 日「日本の信徒発見の聖母」ミサと 3 月 20 日叙階式(いずれも 1 面に掲載)は、参加者を制限して行う旨の通達が出された。さらに 19 日付で 3 月 21 日の夕方から主日のミサを行うことを決定した文書(ただし、すべての信者に、3 月 22 日と 29 日の主日のミサの参加義務を免除)が発表された。

聖なる三日間

4 月 9 日、長崎教区としては初めて典礼祭儀のライブ配信が行われた。同 9 日聖木曜日、10 日聖金曜日、11 日復活前夜の祭儀は 19 時から、12 日復活の主日のミサは 9 時 30 分から、いずれも高見三司大司教の司式により長崎大司教館で行われた(写真)。



族で聴いた」といった声が聞かれた。

高見大司教は今回の対応を次のように語った。「長崎教区でも 4 月末まで公開ミサを中止したため、『聖なる三日間』の典礼祭儀を大司教館チャペルからライブ配信しました。持ち合わせた機材を使つての配信でしたので、満足のいく動画にはなりませんでしたが、しかし、最も重要な典礼祭儀に参加できない信者の皆さんの祈りを助けることになればと思います。実施しました。今後も、例えば殉教者のミサのライブ配信など、司牧と宣教のための IT 機器のよりいっそうの積極的な活用が望まれます」

聖週間以降 4 月末までの公開ミサ中止の期間中は、主日のミサのライブ配信が実施された。

3 月 27 日

27 日、「4 月以降の主日のミサは 3 月下旬同様、引き続いて行われる。ただし、体調の悪い方などにはミサの参加義務を免除。また、感染の危険性が高まると判断される場合、主任司祭は主日(週日)のミサを中止することができる。今後長崎全土での感染状況によってすべてのミサを中止に

子どもと女性の人権相談室

最初のご相談は、お電話でお願いいたします。詳細は各小教区に配布されているポスターをご参照ください。

連絡先 095・865・7829
時間 月・金 10 時～16 時
* 休日(祝日・教区本部事務局休業日など)を除く。不在時は、留守番電話対応。
相談室室長 マリア 福田真理

性虐待防止の決意表明

教区ホームページで公表

2002 年以來、聖職者による性虐待事件が世界中で明らかになり、教皇フランシスコは 16 年、全教会がこの問題に真摯に向き合うよう全世界の司教協議会に対し「性虐待被害者のための祈りと償いの日」を設けることを通達された。これを受け、日本の司教団は 17 年から四旬節の第 2 金曜日をその日と定めている。これまで日本の司教協議会は性虐待の問題を調査し、今年 2 月末日時点で 16 件が報告された。日本司教団は各教区の聖職者が性虐待防止に対する

する可能性もある」との通達が出された。同時に聖週間の典礼について、バチカン典礼秘跡省の指示を参考に、留意すべきことを確認して行う旨の知らせがあった。

後日、以前から聞かれていた教区の対応に対する意見と、4 月に入つて長崎県内で感染者が増えている現状を受け、大司教と教区本部関係者、地区長らが協議を重ねた。

4 月 8 日

4 月 3 日の通達。「聖週間の典礼を含め、4 月 30 日までの緊急な対応として主日と週日の公開ミサの挙行を中止する。聖香油ミサは信徒は参加せず司祭のみで行う(右上の記事)」。5 月の教区地区行事を中止(4 面)として 8 日、3 日通達の改訂版として、公開ミサ中止・厳守の理解と協力を求める通達が出された。聖週間の典礼を含め「司祭は会衆なしのミサをささげる」「修道院・志願院・施設などに出向いてのミサを中止する」対応が徹底された。

聖母の騎士誌創刊90周年 ②

聖母の騎士誌の創刊時から現代まで
引き継がれている精神コンベンツアル聖フランシスコ修道会 山口 雅稔
(聖母の騎士誌編集長)

コルベ神父は、より多くの人々に福音を伝える宣教手段として、マスメディアによる方法、ポータル放送による活動に力を注ぎました。日本とアジアの宣教にも雑誌



聖母の騎士2020年5月号・第988号

一粒の麦が地に落ちて

この原稿を執筆しているのは四旬節の3月なのですが、表題のみ言葉はつきり言っておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ(ヨハネ12・24)が印象的に心に響く出来事がいくつかありました。

一つは、私たちフランシスコ会の修道院で、修練を始める際の修道服の着衣式と、修練を終えて有期誓願期へと移行する際の初誓願式が行われたことです。どちらもさいたまのフランシスコ会の修練院で行われました。今回はコロナウイルスの影響もあり、いつもお祝いしていた信徒の皆さまの参加をお断りしなければならず、心中複雑なものであります。しかし実際にはフランシスコ会の多くの兄弟たちが集まり、新しい決断をした若者を祝福

も力を入れていました。騎士誌の表紙を聖母にしているのはそのためでもあります。聖母の御絵を家庭の中で目につくようにする、というコルベ神父のねらいは、紙媒体の方がインターネットより有効的だと思います。

この原稿を書いている間に、騎士誌5月号の送付作業がありました。コルベ神父をはじめ聖母の騎士の先輩修道者たちは、祈りを込めて送付作業をしていました。それに倣って、宛先の方に祈りを込めて騎士誌を封筒に入れる手作業もまた、紙媒体の騎士誌を続ける価値にもなっていると感じております。マスメディアの要素がある騎士誌ではありますが、一人ひとりを大切にする神様の愛、聖母の愛を入れた器として贈り物になればと願っております。

(つづく)

クリスマス募金支援報告

教区評議会

教区評議会は、自然災害による被災者、国内外の生活困窮者への支援を目的として、昨年12月7日から今年1月15日にかけて「クリスマス愛の募金」の協力を呼びかけた。同評議会は、1月20日までに集まった54万7千344円を、前年度の繰越金82万7千849円と合わせて次の活動団体に送金した。

▼長崎ホームレスを支援する会 50万円 ▼長崎ダルク 50万円 ▼福岡美野島司牧センター 50万円 ▼東京山友会 50万円 ▼大阪旅路の里(釜ヶ崎) 50万円 ▼ドリムカムホーム青少年自立援助60万円 ▼生活困窮者への支援として教区福音化推進部へ 20万円 ▼佐世保隣人愛の会 20万円 ▼声

一葉募金からの支援

昨年4月に起こったスリランカ・コロンボでのテロによる被害に対し、支援として、一葉募金から200万円と、教区内の小教区からの献金30万

カタリナ

久松カヲ修道女

(お告げのマリア修道会)



3月22日逝去。92歳。1927年平戸市生まれ。50年田平修道院に入会。59年初誓願、79年終生誓願宣立。入会後30年以上農耕に従事し、数年間事業所司祭館の調理に携わった。花々を愛し、庭の手

入れをしては見る人の心を和ませた。13年前、脳出血で半身がまひし、養護老人ホーム光の園で過ごしたが、祈りの人であったシスターは、病床でお世話になっていた職員をはじめ、たくさんの方々のために祈った。闘病の苦しみをお父様に委ね、聖母マリアに助けを願ったが、最期の苦しみを捧げ尽くし帰天した。葬儀ミサ・告別式は3月23日、田平教会で行われた。

1982年とが、昨年5月以降回数に分け、支援対応にあたる中央協議会に送られた。一葉募金は緊急災害対応のため島本 要大司教の呼び掛けで1991年に始まった。家庭で毎週償いの日をもうけ、おかずの一葉(一品)分を犠牲として捧げる救援募金。

リック講座」と「聖書講座」は本紙5月号に案内を掲載する予定だったが、5月まで開講しないことになった。今後の予定は決まり次第、各小教区、本紙または長崎教区ホームページを通してお知らせする。

訂正

二〇二〇年度「カトリック教会祝日表」

・33頁の山脇 守師の名前に付記している「司教総代理」の務めは、現在は中村倫明補佐司教。

短信

【教区典礼奉仕者養成講座3回目中止】

お知らせ

【新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止になった行事・講座など】

・5月3日(日) 広島教区の津和野・乙女峠まつり

・5月4日(月) 長崎教区評議会総会

・5月17日(日) 雲仙殉教祭

・教区生涯養成委員会主催の2020年度「カトリック講座」と「聖書講座」は本紙5月号に案内を掲載する予定だったが、5月まで開講しないことになった。今後の予定は決まり次第、各小教区、本紙または長崎教区ホームページを通してお知らせする。

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は

メモリアル・東・礼・典・会館・中央・高橋

長崎・諫早・大村・佐世保

株式会社メモリアル 事務局 ペトロ 田川慶司

0120-44-6666

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社

西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 剛

本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地

TEL (0956) 31-8268

不動産・会社・法人の登記や相続の手続

司法書士 山下 緑 事務所

代表者 ミカエル 山下 緑

所属 諫早教会 洗礼 井持浦教会 堅信 福江教会 結婚 浦上教会

〒854-0072 諫早市永昌町20-5 電話 0957-25-4886

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網

エテルナ・ワコー(株)

代表取締役 ミカエル 溝口 晃

〒858-0926 佐世保市大湊町586

TEL (0956) 47-4380

注文家具の店 家庭祭壇・聖具・祭壇・長椅子・朗読台

佳織木工所

kaori-mokkousho.com

【家庭祭壇ギャラリーOPEN パンフレットもご紹介します。】

〒857-0032 佐世保市宮田町7-7

☎0956 (23) 1867

代表 ラウラ・ビクーニャ 濱口 佳織

タンスの中身は入れたまま責任ある安全運送!! (見積り無料・荷造り発送も致します)

24時間営業・年中無休 受付時間 7:00~22:00

水浦運送

シモン 水浦 幹雄

長崎市上野町12-3

TEL (095) (代) 847-7151

844-1420

貨物保険有り

- 一般引越
- 小荷物
- 遠距離
- 学生引越
- ピアノ運搬